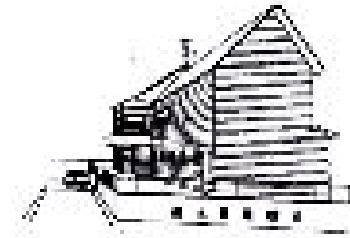


週報

2009年 4月 5日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

今朝の聖書から “だれでもわたしについて
きたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わた
しに従ってきなさい。(マタイ 16:24、ルカ 9:23)”とイエ
ス様は、教えられました。今朝の聖書箇所は、この出来事から
書き始められています。大変だったので、クレネ人シモンに十
字架を負わせたのでしょうか。主の背負われた十字架は、この
上もなく重く命をも奪うものに間違いありませんでした。しか
し、私たちに与えられている十字架は、ただ私たちに与えられ
ているというだけで、軽く、その目方の殆んどをイエスが背
負って下さっているのです。“わたしのくびきは負いやすく、
わたしの荷は軽いからである”とあります(マタイ 11:30)。
シモンは選ばれたのです。そして十字架を背負わせて頂いたの
ではないでしょうか。この選ばれたシモンが何と言ったか、ど
んな風にしたのか、マタイは、マルコほどには記録していません。
私たちに察して見よ、と言っているようです。ですから主
より与えられた十字架を、十分に肯定的に私たちは受け取るこ
とができるのです。この肯定的なシモンに対して、兵士たちは
正反対に否定的でした。詩編 69:21 に“わたしの食物に毒を
入れ、わたしのかわいた時に酢を飲ませました”とあることの
成就を示しています。マタイは主の十字架の出来事そのものにつ
いては、詳しく触れていません。焦点が当てられているのは
周りにいた人々なのです。“もし神の子なら、自分を救え(27:
40)”とか“他人を救ったが、自分自身を救うことができない
(27:42)”という言葉が、この群衆によって語られます。私
たちも、教会はそのようなことを教理として教えているのだ、
と思ったことはないでしょうか。しかしこの十字架がすべてを
変えました。すべての人の贖いだったのです。先週の祈禱会
ではアリマタヤのヨセフに焦点を当てて学びましたが、この議員
であるヨセフが、回心し主の復活の場を提供しました。如何に
身を処するのが世の中の知恵かを、このヨセフも考えていま
した。しかし、彼は十字架に直面し、“議会の決定には賛成して
いなかった(ルカ 23:53)”とある通りにする人に変えられた
のです。信仰者の十字架がここに立つのです。